



プロジェクト事例や失敗しがちなポイントも交えて徹底解説！

Excel・スプシ運用の棚卸しから 始める現場DX

～集計フローの自動化によるデータ活用術～

本日のアジェンダ

- 1 現場のExcel・スプシ運用が直面する「理想と現実」
- 2 集計フローの棚卸しと再設計のステップ
- 3 定着化のコツ&データ基盤化に向けた「3つの論点」
- 4 アンケートと個別診断のご案内

本資料がおすすめの方



本資料では、Excelやスプレッドシートを使った日々の集計業務に限界を感じている方に向けて、現場の混乱を招かずに「属人化を解消する第一歩」をどう踏み出すべきか、その具体的なステップをお伝えします

ターゲット

経営企画や部門マネージャー、DX推進担当者など
現場のExcel・スプシ運用に課題を抱えている方

目的

「どの業務から手を付け、どこまでをシステム化すべきか」が明確になり、
脱属人化のためのデータ活用フローへと一歩踏み出せる状態になること

本日お伝えしたいこと

脱Excel・属人化解消の鍵は、
いきなりのツール導入ではなく、
入力・集計・報告を切り分ける ”業務の再設計” にある

アジェンダ①

現場のExcel・スプシ運用が直面する「理想と現実」

現場のExcel・スプシ運用における理想 vs 現実



現場のExcel・スプシ運用におけるよくある理想と現実として、以下のような内容があげられます

	理想	現実
ファイル管理	常に最新のデータが一元管理されている 「一つのファイルを見れば、全員が正しい同じ数字を共有できる。」	果てしないファイルの乱立 「『〇〇集計_最新_v3_最終.xlsx』が散在し、どれが正解の数字なのか誰にも分からない。」
集計プロセス	誰でも同じ手順でミスなく集計できる 「オペレーションやフォーマットが統一されており、担当者が変わっても業務が回る。」	属人化とブラックボックス化 「複雑な関数や退職者のマクロが神格化。担当者が休むと数字が出ず、誰も触れない。」
意思決定のスピード	見たい数字が即座に可視化される 「経営会議の直前でも最新データが揃い、タイムリーな判断ができる。」	集計の長期化によるタイムラグ 「予実集計の手作業だけで毎月2日潰れ、報告時にはすでに情報が古くなっている。」
システム化・DX	ツール導入でExcel作業から解放される 「新しいシステムやRPAを入れれば、面倒な手作業はすべて自動化される。」	“負の遺産”の自動化とExcel作業の復活 「業務ルールが曖昧なままツールを入れた結果、エラーが頻発し、結局Excel作業に戻る。」

Excel・スプシ運用が生む「3つのブラックボックス」



属人化は、担当者のスキル不足ではなく、Excel・スプシというツールの「手軽さ」が引き起こす構造的な問題です

1

数式・マクロの複雑化

長年の「継ぎ足し運用」により、作った本人ですら全体像が把握できないスパゲッティ状態に。

2

例外処理のファイル内埋没

「このイレギュラーは手打ちで修正する」といった、現場の暗黙知がファイル内に隠れてしまう。

3

「入力・集計・報告」の
ステップの混在

1つのファイルにデータ入力、重い関数での集計、グラフ化が全て詰め込まれ、少しの入カミスがバグに直結する。

アジェンダ②

集計フローの棚卸しと再設計のステップ

ステップ1: 棚卸し ~集計フローの現状整理~



いきなりシステム化を考える前に、まずは現状のExcel・スプシ運用を可視化します

「誰が・何を・どこへ」を整理

- ・入力元(誰がデータを入れるか)
- ・処理(どんなVLOOKUPやマクロが組まれているか)
- ・出力先(誰が、何の会議でその数字を見るか)

やめる業務の棚卸し

- ・「誰も見ていない謎の定例レポート」は、この機に廃止する。
- ・予実管理など「経営へのインパクトが大きく、かつ集計のコストが最も大きい業務」から優先順位をつける。

ステップ2:「責務の分離」による再設計



1つのファイルにすべてを詰め込む万能集計ファイルからの脱却が、属人化解消の鍵です

1

【入力】事実データを集める

- ・ツール: スプレッドシート、入力フォームなど
- ・役割: 現場が迷わずシンプルに入力できるUIが重要。

2

【集計】ロジックを固定・自動化する

- ・ツール: スモールスタート向けのデータ集約基盤(BigQuery等)
- ・役割: 手作業のコピペを自動連携(パイプライン)に置き換え、ミスと工数をゼロにする。

3

【報告】意思決定のために可視化する

- ・ツール: BIツール、閲覧専用のスプレッドシート
- ・役割: 最新の正しい数字だけを表示し、絶対に直接編集させない。

【事例】店舗別レポートの乱立を解消したパイプライン構築



「毎月、各店舗から送られてくる数十個のExcelをコピペで合体させる」という丸2日間の作業をゼロにした事例です

Before (課題)

- ・各店舗が独自のフォーマットで実績を Excel入力してメール送信。
- ・本部担当者が手作業で転記・VLOOKUPで結合。
毎月末に丸2日残業が発生し、経営会議への報告にタイムラグが起きていた。

After (解決策)

入力:各店舗は統一された Googleフォームに入力。

集計:入力データが自動で BigQueryに連携・集約されるパイプラインを構築。

報告:マネージャーは BigQueryと連携したスプシを開くだけで、常に最新の全社集計データが閲覧可能に。結果としてマネージャーが赤字店舗の兆候を 2週間早く検知できるようになり、事前に対策を打てるように。

現場DXで失敗しがちなポイント



「そのままツールを導入」ではExcel・スプシ業務の復活を招きます



今の複雑な業務フローをそのまま RPAで自動化する

→ 例外処理でエラーが頻発し、結局Excel・スプシ運用の元の手作業に戻ってしまう



見よう見まねの自作パイプラインは技術的負債につながる

→ 「スプシからBigQueryに繋ぐだけ」と他社事例などを参考に安易に構築すると、拡張性のないスキーマ設計になり、半年~1年後に再度作り直しになる



裏側はシステム、表側は現場に合わせる

→ 業務フローを整理の上で拡張性のあるデータ構造を設計。

→ その上で現場のExcel・スプシといったUIは極力残しつつ、裏側の重い集計処理だけをツールに逃がすモデルスタートが最も確実。

アジェンダ③

定着化のコツ&データ基盤化に向けた「3つの論点」

論点1: ツールの選び方



最初から高額なBIツールやETLツールを導入する必要はありません。既存ツールで小さく始めるのが鉄則です

1

既存ツールで
スモールスタート

Google Workspaceユーザーであれば、

1. スプシやGoogleフォームでの入力
2. BigQueryでの集計
3. Connected Sheetsを用いた報告

コストを抑えつつ、大量データでも固まらない・重くない、快適な集計環境をいち早く現場に届ける。

2

全社展開に合わせて拡張

データ量や見たい切り口が増えてきた段階で、Looker StudioやTableauなどの本格的なBIツールを導入検討する。

論点2: 推進体制の作り方



情シスやDX推進部門だけで推進すると、現場との温度差でうまく進まないケースが多いです

業務を最も熟知している「現場のキーマン」を巻き込む

例えば、現状の複雑なExcelを作った担当者を味方につけ、初期段階からプロジェクトに参画してもらう。

IT部門と業務部門の「役割分担」を明確に

- ・IT/DX部門: データパイプラインの構築、DWHの運用保守、セキュリティ担保
- ・業務部門: 業務ルールの明文化、データの品質チェック、例外処理の定義

論点3:運用のルール整備



せっかくデータパイプラインを構築しても、使われなければ意味がありません。定着させるための仕組みが必要です

会議体とシステムをセットで運用する

- ・経営会議や定例会では、必ずシステムから出力された画面を見て意思決定するというルールを設定する。
- ・自分用のExcelで集計し直した数字は会議で受け付けない。

指標の変更管理のプロセスを決める

- ・ビジネス環境の変化に伴う集計ロジックの追加・変更要望は必ず発生する。
- ・「誰に・どう依頼すればシステムが更新されるか」のフローを事前に決めておく。

本日のまとめ



1

脱Excel・属人化解消の鍵は
「責務の分離」

1つのファイルに詰め込まず、「入力・集計・報告」の役割を明確に切り分ける。

2

いきなりツールを入れず、まずは棚卸しから

「誰が・何を・どこへ」を可視化し、不要な業務をやめる決断をする。
インパクトの大きい業務からスモールスタートで着手。

3

定着させるための
「3つの論点」

1. ツール: Google Workspaceなど既存環境でスモールスタート
2. 体制: IT部門だけでなく、業務を熟知した現場のキーマンを巻き込む
3. 運用: 会議体とセットでシステムを利用するルール化による定着化

サービス紹介

お客様のよくある課題



お客様のプロダクト・システム開発における、Quality(品質)・Cost(価格)・Delivery(納期)にお悩みはありませんか？

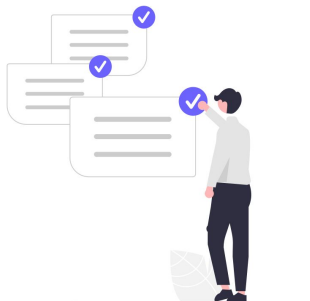
Quality(品質)

- ・要件の認識ズレによる品質低下
- ・不具合や技術的な拡張性の低さ



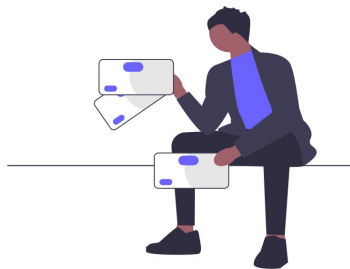
Cost(価格)

- ・工数拡大による予算超過
- ・仕様追加 / 手戻りによる費用増



Delivery(納期)

- ・スケジュール遅延
- ・仕様変更による進行停滞



事業内容



弊社は、お客様のプロダクト・システム開発における課題に対して、高品質・低コスト・短納期の開発/DX支援を提供いたします

高品質・低コスト・短納期の 開発/DX支援

IT事業会社出身のプロフェッショナルが、事業成果の創出をゴールDX・開発を伴走支援。さらに、標準化された開発アプローチにより、「高品質・低コスト・短納期(QCD)」を両立した支援を実現します。

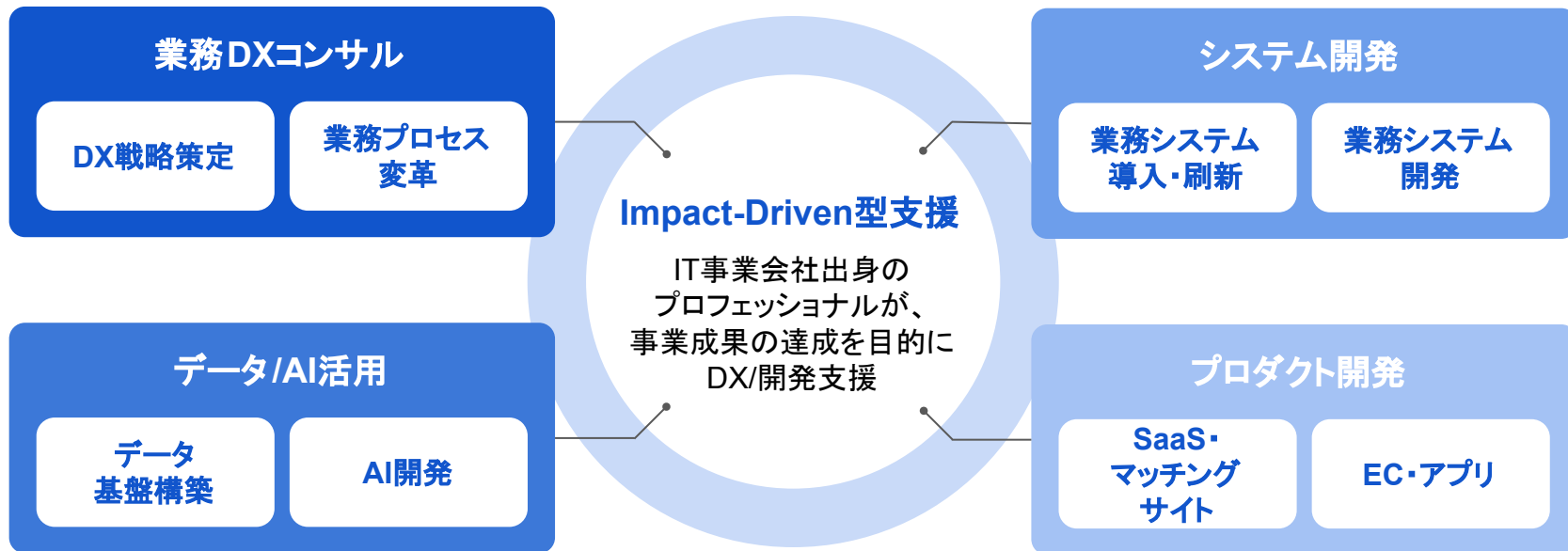


事業内容 ～Impact-Driven型支援～



IT事業会社出身のプロフェッショナルが、「Impact-Driven型支援」を通じて、お客様のDX/開発支援を成功へ導きます

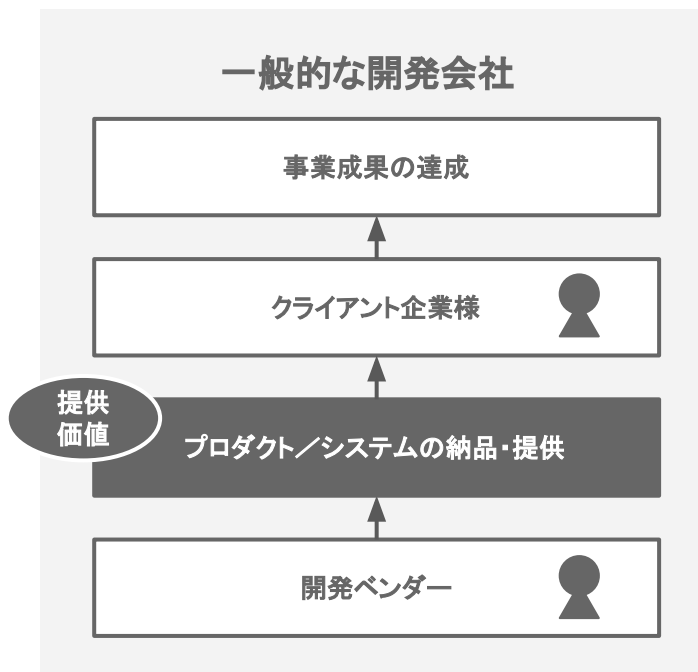
RIPLAが提供するサービス



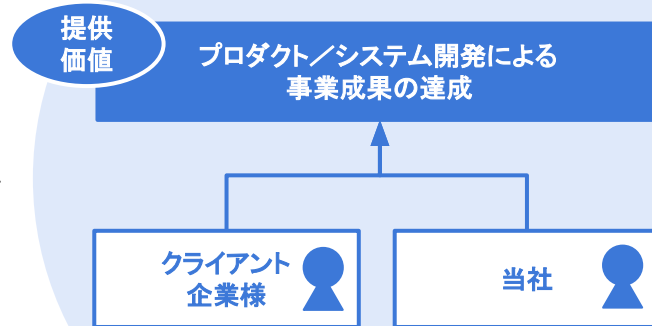
事業内容 ～Impact-Driven型支援～



「Impact-Driven型支援」では、プロダクトやシステムの納品・提供を目的とせず、お客様と同じ目線で、事業成果の達成をゴールとして、高品質なDX/開発支援をいたします



RIPLAの "Impact-Driven型支援"



事業内容 ～Impact-Driven型支援～



具体的な支援手法として、ユーザー価値や組織浸透性を意識した要件定義、中長期の拡張性や内製化を見据えたシステム設計により、事業成果を最大化いたします

事業成果を意識した要件定義

- ✓ 事業成果やユーザー価値を意識した製品の機能企画や UI/UX設計
- ✓ 現場業務や組織浸透性を意識したシステムの要件定義

中長期目線で柔軟なシステム設計

- ✓ 中長期の拡張性や運用を見据えたアーキテクチャ設計
- ✓ 将来的な内製化に向けた採用しやすい技術選定

“Impact-Driven型支援”により、事業成果を最大化

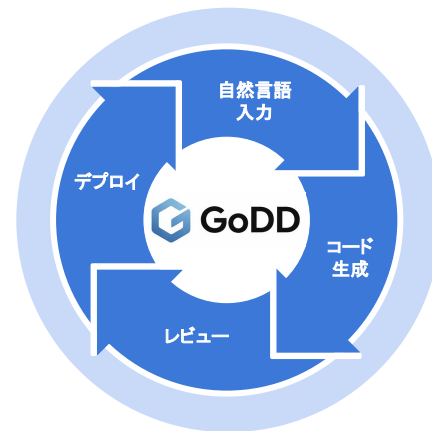
事業内容 ～Boxシリーズ×GoDD～



「Boxシリーズ」による標準機能の高速開発と、「GoDD」による独自機能のAI実装を組み合わせることで、低コスト・短期間で開発を実現いたします

Boxシリーズ

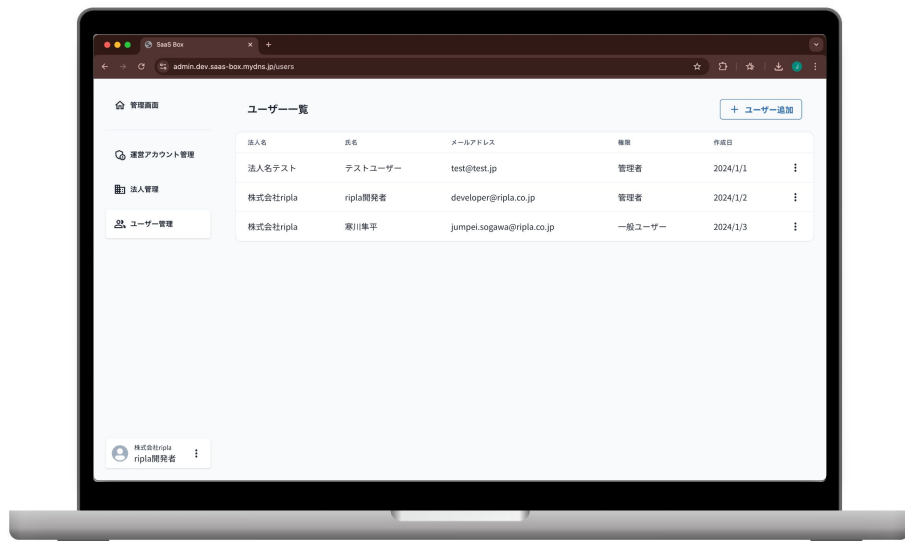
GoDD



事業内容 ～Boxシリーズ～



「Boxシリーズ」は、各プロダクト・システムに必要な標準機能を、モダンな技術と優れたUI/UXであらかじめ実装しており、そのままご利用いただくことが可能です



モダンな技術と優れた UI/UXで
標準機能を搭載

事業内容 ~Boxシリーズ~



各Boxシリーズに搭載されている主な機能は以下の通りです(一部抜粋)

<p>Box名称</p>	 受発注管理 Box	 在庫管理 Box	 配送管理 Box	 業務システム Box	 生成AI Box
<p>機能例</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ログイン機能 ・ユーザー管理/権限管理 ・マスタ管理 (受注/発注/商品) ・受注/発注管理 ・需給予測 ・インフラ構築 	<ul style="list-style-type: none"> ・ログイン機能 ・ユーザー管理/権限管理 ・マスタ管理 (出荷先/入荷元/商品) ・出荷/入荷管理 ・在庫管理 ・インフラ構築 	<ul style="list-style-type: none"> ・ログイン機能 ・ユーザー管理/権限管理 ・マスタ管理 (届け先/商品) ・配送管理 ・配送最適化機能 ・インフラ構築 	<ul style="list-style-type: none"> ・ログイン機能 ・ユーザー管理 ・権限管理 ・ユーザー向け画面 ・管理画面 ・インフラ構築 	<ul style="list-style-type: none"> ・AI チャット機能 ・RAG基盤 ・ベクトルDB基盤 ・検証用画面 ・バッチ処理 ・インフラ構築
<p>Box名称</p>	 SaaS Box	 マッチングサイト Box	 EC Box	 アプリ Box	 LINE Box
<p>機能例</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ログイン機能 ・ユーザー管理/権限管理 ・法人管理 ・ユーザー向け画面 ・管理画面 ・インフラ構築 	<ul style="list-style-type: none"> ・ログイン機能 ・ユーザー管理/権限管理 ・マッチング機能 ・ユーザー向け画面 ・管理画面 ・インフラ構築 	<ul style="list-style-type: none"> ・ログイン機能 ・ユーザー管理/権限管理 ・マスタ管理(顧客/商品) ・受注管理 ・ユーザー向け画面 ・管理画面 ・インフラ構築 	<ul style="list-style-type: none"> ・ログイン機能 ・ユーザー管理/権限管理 ・プッシュ通知機能 ・アプリUI(iOS/Android) ・管理画面 ・インフラ構築 ・リリース申請 	<ul style="list-style-type: none"> ・LINEログイン ・リッチメニュー基盤 ・LINE配信機能 ・公式アカウント情報連携 ・ユーザー管理/権限管理 ・インフラ構築

事業内容 ～GoDD～



「GoDD」は、人間の意思決定を中心に開発フロー全体を効率化するAI駆動開発フレームワークで、各プロダクト・システムに必要な独自機能の開発を高速化いたします

GoDD AI

開発プロセスを自動化する
強力なAIエージェント



...を実装して



自然言語入力 コード生成 レビュー デプロイ

自然言語で
指示するだけ

GoDD Notes

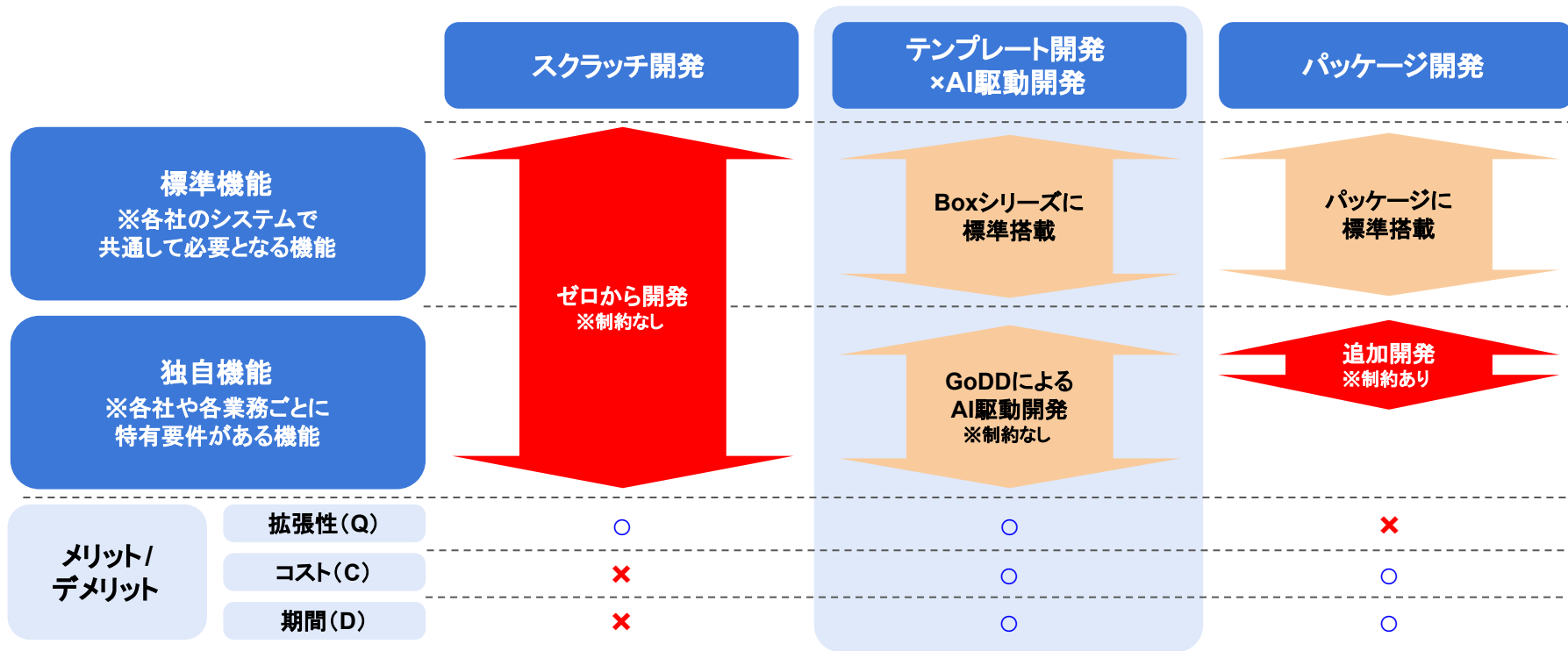
仕様書をベースにした
コラボレーションツール



事業内容 ～Boxシリーズ×GoDD～



テンプレート開発(=Boxシリーズ)とAI駆動開発(=GoDD)を併用することで、Q(拡張性)
・C(コスト)・D(納期)の三点両立を実現いたします



RIPLAの対応技術



AI・モダンな技術・クラウド型・APIなどの最新技術を活用することで、新規性のある取り組みや、拡張性や柔軟性の高い開発に対応可能です



AIを活用した業務効率化や 新たな価値創出

AI技術を活用することで、業務プロセスの自動化、レコメンド機能、自然言語処理、画像解析などが可能になります。



モダンな技術を活かした 高品質な開発

最新のモダン技術を活用することで、ユーザビリティの高いUI/UX設計、保守性の高いアーキテクチャを実現します。



クラウド型で拡張性のある システム構築

クラウドインフラを活用することで、柔軟かつ拡張性の高いシステムを構築し、初期投資を抑えることも可能です。



API連携による柔軟な 外部サービス連携

外部システムやSaaSとのスムーズな連携を前提としたAPI設計を行うことで、機能追加や業務連携が容易になります。

RIPLAの対応技術



また、お客様のニーズに応じて、幅広い技術を取り扱うことができます

フロントエンド



バックエンド



AI関連



アプリ



DB関連



クラウド技術・その他



これまで多数の業務DXコンサル、データ/AI活用、システム開発、プロダクト開発の支援実績がございます

業務DXコンサル

- ・販売 / 顧客管理システムの刷新
- ・大手建設企業のDX戦略策定
- ・金属商社企業の基幹システム刷新
- ・広告SaaSのマルチプロダクト構想策定
- ・印刷EC新規事業の構想策定など

データ/AI活用

- ・訪問看護のAI FAQシステム
- ・AIデータ分析SaaS
- ・ホテル向けのデータ基盤構築
- ・AI画像解析による商品棚在庫管理
- ・コーチングのAIチャットボットなど

システム開発

- ・物流系WMS / OMS
- ・ガソリンスタンド受発注管理システム
- ・営業ナレッジマネジメントシステム
- ・訪問看護のスケジュール管理システム
- ・ドローン機器管理システムなど

SaaS

- ・研修管理 / 学習管理SaaS
- ・LINEチャットボットSaaS
- ・SFA / CRM SaaS
- ・設備保全管理SaaS
- ・採用管理SaaS など

マッチングサイト・EC

- ・インフルエンサーマッチングサービス
- ・求人検索メディア
- ・美容師マッチングサービス
- ・ビジネスマッチングサービス
- ・オンラインチケット販売EC など

アプリ

- ・献立共有アプリ
- ・旅行ガイドブックアプリ
- ・医療用スマホアプリ
- ・スポーツゲームアプリなど



RIPLA